

北海道新幹線開業記念

ふるさと訪問旅行 特集

6月24日(金)～26日(日)
ふるさと『北斗市』を訪問しました

2016年10月22日
東京北斗会
発行



去る2004年10月に「ふるさと」を訪問しましたが、このたびは「北海道新幹線開業」に合わせ、ふるさと北斗市を訪問しました。参加者は49名でした。

北斗市役所や関係団体の方々から温かい「おもてなし」をいただきました。本当にありがとうございました。参加された皆さん、旅行はいかがでしたか。

6月24日

「はやぶさ11号」で新函館北斗駅へ～きじひき高原パ
ノラマ展望台～太平洋セメント峯朗鉱業所～写真撮影
アンビックス上磯ゴルフクラブ～歓迎式典、懇親会～
アビスタ函館ベイ泊まり。

6月25日

あぐりへい屋～戸切地陣屋～
湯の沢水辺公園～茂辺地パークゴ
ルフ場～エイド03～フィッシャリー～
トラピスト修道院。



☆☆☆☆☆☆

参加者からの投稿です ☆☆☆☆☆☆☆☆☆



新幹線でふるさとへ

棟方美千子



私が北斗市(旧上磯町)を離れて三〇年。連絡船で津軽海峡を四時間で渡り、青森から汽車で十数時間かかって着いた埼玉。それが、今では新幹線でわずか四時間で我がふるさと北斗市に帰れるなんて思ってもいませんでした。

東京北斗会の「ふるさと訪問旅行」に参加し、新幹線を降りて新函館北斗駅に着くと、高谷市長さん始め議員さん、北斗市役所職員の方々の盛大な歓迎レセプションが準備されていて、また、駅の目の前に「ようこそ北斗市へ」の田んぼアート、ずーしーほっきーのお出迎え。なんだかゆったりした気持ちになり、「あ〜ふるさとはやっぱいい〜なあ」とつくづく思いました。

その後、バスで廻った義朗の採掘現場、太平洋セメントの中など、個人では観ることのできない所を案内していただきました。また、夜にはアンビックス函館倶楽部(ゴルフ場)で、盛大な懇親会を開いていただきました。このゴルフ場では、7月に女子プロの試合もあり、私たちのふるさと北斗市を誇らしく思いました。

二日目は雨になりましたが、その天気もどこかへ吹き飛びそうな「上磯弁」のバスガイド(市役所職員)

で盛り上がり、お昼は、地域の皆さまの思いやりあふれる、ホッキ飯、ホッキシューマイなど沢山のふるさと料理をご馳走になりました。その後、当別のトラピストに行き、普段女性が入ることのできない所まで案内していただきました。

また、帰りには、ふるさとの特産品をお土産として沢山いただきました。

愛と真心をいただいたふるさと訪問。皆さんも、またいつか機会がありましたら、ぜひ参加して欲しいと心から思います。

今回の旅行を企画してくださいました幹事の皆さま、本当にありがとうございました。



「楽しかったふるさと訪問旅行」

義朗出身; 甲谷光孝(78才)



心待ちにしていた北海道新幹線が開通し、しかも、ふるさとの北斗市が北海道の最初の停車駅となったのだから、イガねば、罰当たるべーと言う事で東京北斗会がふるさと訪問旅行を企画して下さったので参加させて貰った。

6月24日快晴の東京駅から乗車する42名が集合し、9時36分発はやぶさ11号で胸躍るふるさとへと出発、13時38分新函館北斗駅に着いた。速い。私が転勤で東京に来た昭和40年は苦小牧から上野まで38時間も掛かっていた。3回食事を済ませても着かなかったのに、東京駅で買った缶ビール2本を呑み切らない内に着いた、流石に早い！そして飛行機と違い、地上の景色を観られるのが楽しい事である。

新函館北斗駅のホームに降りた人達が一斉に寒い！！と言った、涼しいではなく寒いと言ったのだ…笑、北斗市に暮らした事のある人達ですよ、裏切り者め！北海道の気候を忘れてるのだ。新函館北斗駅で高谷市長さんを始めとする北斗市の方々の歓迎の言葉を聞いていたら仄々として来た。石川啄木の「ふるさとの訛り懐かし停車場の人ごみの中にそれを聴きに…」

が心によぎる、啄木もこんな感慨だったのではないかと思った。

その後北斗市が用意して下さった専用バスで市内見学、きじひき高原パノラマ展望台は生憎の天気で展望は望めず次の時までの楽しみとなった。我が故郷のガロウの景色の様変わりには唖然とし、心に残っていた景色との落差に悲しくもなったが普段は行けない所に案内して下さった北斗市とセメント会社には感謝、感謝です。

2日間のバスでの見学会は北斗市の石川部長さんのユニークなガイドとユーモア溢れる解説に車内は笑いの渦と明るさに満ち溢れた状態で癒やされ、楽しく、降りるのが嫌になる位でした。更に北斗市役所の方々が調理して下さったホッキ貝の手料理も美味しくて良き思い出となった。

今回の旅行の2泊3日は北斗市の方々の暖かい心配りで楽しく時間が過ぎるのが早かった。



ふるさとへ帰って

谷川出身 廣田葉子（八十三才）

平成二十八年初夏。待ちに待った東京北斗会主催の帰郷。そして新幹線開通との二重の喜びを胸に、車窓を眺め、車内での弾む会話の中、一路ふるさと北斗市へ向う列車。新函館北斗駅の土を踏み、ひと呼吸する空気の味。安堵感と、生きている実感がありました。

北斗市役所の心温かな歓迎。そしてバスに揺られ、次々に変わる風景は、脳裏に浮かぶ記憶と、今、目の前の光景を重ね重ねの懐しい思い出は、感極まるものでございました。

兄が勤務していたセメント会社の見学は、社員の方の案内説明の中に、兄の汗と、生前の面影、生涯お世話になった会社の重みに、感謝の心でいっぱいになりました。また、がろう見学での際、昔の地図を手にして、「ここは何処？あそこは？」バスの中では、数々の言葉が飛びかい、その住居地図には、子供時代、青春時代の友の名前が次々に出てきて、この時は、自分の白髪と共に歳月の流れを感じ、懐かしさと、少し寂しい感じが入り混じり複雑な気持ちになったものでした。



この様な数々の思い出の蘇りで過した二泊三日の旅は、私にとってかけがえの無い老年の宝物となり、また生きる力をいただきました。また機会が有りましたら、もう残り少なくなった数える程の友と至福の時を過ごしたいであり、四時間で昔の時代に戻れる新幹線に、ひよいと足をかける自分を想像してしまいます。

千葉の空から遠くふるさと上磯の空を想いつつ、東京北斗会というお仲間がいる事に幸せを感じ、ペンを置く事にします。

最後に、この度の旅のご準備をして下さった幹事の方々、そして大歓迎をして下さった北斗市役所の方々にお礼申し上げます。



私のふるさと訪問旅行

(石別) 山田 道夫

この旅行は北斗会の皆さんとほとんど交流のない中での妻との参加でした。

新幹線はやぶさ11号は定刻通り出発。列車内のあちこちで飛び交う上磯弁、「うんだうんだ」とか「いったなあ」など、断片的に聞こえてくる会話が懐かしく、旅行への不安な気持ちを一扫してくれた。はやぶさは単に速いのみならず静粛性も申し分なく、快適な旅を与えてくれた。

走り出して数時間が過ぎて、「間もなく津軽海峡トンネルに入ります。」と車内アナウンスがあり、眠りから醒めた。漆黒の海底へ、列車はどンドン進んで行く。軽い閉塞感を覚え、車窓を眺めていると、50年前の高校時代のH君とS君の言い争いが走馬燈のように思い出された。それは江差松前線の汽車の中だった。

「津軽海峡トンネルが完成したら、函館への上り線が、逆に東京からの下り線になるぞ！ そうなるとお前の方が田舎者になるぞ。」



この他愛もない二人の会話に私は、ほくそ笑んだのだった。

新函館北斗駅に到着後、数々の盛大な北斗市主催の式典、市専用バスでの名所や景勝地への案内など、大変お世話になった。特に、バスガイド役の市職員である石川さんのユーモアたっぷり、緻密で軽妙なトーク司会進行には脱帽した。

この旅行で多くの貴重な体験をさせていただいた。食べてよし、見てよし、泊まってよし。その中で最も印象に残ったことは故郷の人々との会話だった。心の交流を通して絆の大切さを確認できた。

遠く離れていた東京との距離感が、この新幹線開通によってグーンと狭まり、ふるさと北斗市が経済・文化・教育の各方面で今後、スピーディーにかつ大胆に活性化する可能性に期待すること大である。

このふるさと訪問旅行の企画・実施にご尽力下さった北斗会役員並びに北斗市職員の皆様に心より感謝を申し上げます。



峯朗万歳

私は上磯小学校卒業ですが、峯朗で生まれ5才まで住んでいました。それで、今回のふるさと訪問旅行では峯朗に行けるとのことで、大変楽しみにしていました。初日、早速峯朗鉱山に行き、生憎の雨でバスの車窓からの見学となりましたが、同じく峯朗出身の松井さんが、私の生家の場所を教えてくださいましたので、昔懐かしい峯朗の生活を思い出し、目頭が熱くなりました。

さて、旅行最終日の帰る時に私の母(88歳)が新函館北斗駅まで一緒に来てくれました。そこで峯朗出身

池田 均

の簡さんや武井さんと会うことができたのです。実に50余年ぶりの再会でしょうか。今回は会うことはないだろうと思っていましたが、こうしてできたので、少しは親孝行できたかなと嬉しく思いました。

今回、東京北斗会の幹事の皆様をはじめとして、北斗市の関係各位に大変お世話になりました。深く御礼申し上げます。大袈裟ではなく一生の思い出ができました。帰宅後数日間感動に浸っていて、仕事の手につきませんでした。沢山の感動、ありがとうございました。

追記：私の父・池田幸吉は昔、谷川小学校で教諭をしていた。母・秀子と巡り合い結婚し、峯朗に新居を構えた。3人の子供が生まれ、私はその2番目である。残念ながら父は平成16年12月に脳溢血で他界した。享年78歳。



ふるさと訪問旅行記

米田正彦(大野小学校出身)



6月24日の朝9時頃に東京駅新幹線ホームに参加する北斗出身者が集まって来ました。総勢49人が参加予定です。

ちょっと昔の修学旅行気分に近い、うきうきとした気分も感じますが、年齢的には60代から80代といふし銀の方々です。待ちに待った新幹線に乗れる、確か大野に新幹線が来ると言う話を聞いたのは17歳か18歳くらいの頃だった気がします。今年61歳なので40数年前の話がようやく実現したのです。本当に出来るまで長かったです。

さて、出発時刻です。何人かの方が上野から乗ろうとしたのですが、上野に停車しないと聞いて急きょ大宮から乗って来ることになった方、常磐線が遅延で時間に間に合わない方がいたり、心配事がありながらの出発でしたが、結果的にはうまく収まりました。

大野の参加者は大野小出身の同級生寺田光世さんと市ノ渡小出身の土屋治さんの3人です。そして3人も北海道新幹線は初めてです。



皆さんに帰りの切符等渡してから、各自買って来たお酒やつまみを分けあつての飲み会が始まりました。これはいつもの光景ですが、バスと違って新幹線の中は広くていいですね。1両の1/2位の座席を占めてましたから、ちょっと貸し切りっぽいのも良いですね。酒を酌み交わし、雑談している間に4時間があつと言う間に過ぎて、新函館北斗駅に到着しました。

改札を出たら北斗市長以下市の幹部連、なじみの「ずーしーほつき」が出迎えてセレモニーをして下さり、ちょっと感激でした。市長自ら駅舎の中も案内して下さい、田んぼアートもやっていて、旅行者に楽しんでもらおうとの意気込みが伝わってきました。

その後、市が提供して下さったバスに乗ってきじひき高原パノラマ展望台に案内されましたが、あいにくの雨模様で自慢の景色が全く見えなかったのは残念でした。

その後、上磯セメント工場を初めて見る事が出来ました。工場の歴史や、あと300年も製造できる山を持っていることや、日本でも有数の工場である事の説明がありびっくりしました。大野側から見る峯朗の山は、帰郷するたびに年々はげ山になり、昔と比べて高さも低くなり、年月がたったなと感じられます。

アンビックス上磯ゴルフクラブでの懇親会は市長はじめ市の幹部、議員さん、商工会、農協・漁協などなどの名士の方々とお話ができ、とても楽しかったです。自分の2世帯住宅を大野本町に建ててくれた市議会議員にも久しぶりにお会いでき、母や亡くなった父がお世話になっている市議会議員にも挨拶ができ大変嬉しかったです。

訪問旅行を受け入れて下さった故郷の皆様の温かい気持ち、ひしひしと心に伝わりました。本当にありがとうございました。



訪問旅行

花木瞳



友人と二人この旅行に参加、北の地の香りどんな香り、この6月25.26の2泊での旅、はじめて新幹線はやぶさにての新函館北斗駅、我が故郷の地にいつ日かと夢見ていたその車両がホームへと、エスカレータ上りつつ住んでいる所との空気の違い、やっぱり故郷の地、市よりの方々に迎えられまして、ご挨拶後バスにての行動、この地を離れて半世紀近い、年に少なくとも一度は墓参りや友との出会いに、卒業後7年間地元の家社へ勤めその後、憧れの都には連絡船で4時間程の時間、その時間にて東京～北斗市への時間とはこんなにも近くなりただただ驚く次第です。

年齢が重ねるに足を運ぶごと、この町の風光明媚さに気づかされ、海あり、山あり、なんとこのパノラマ、若い頃は何を見ていたのだろうか気づいていなかった。この旅行にて小学生時代の思い出が、学舎は清川と云う地名に沖川小学校、春の遠足は桜の並木道を通り戸切地陣屋への決りコース、秋には冬支度の小枝拾い、運動会は小さなグラウンドに家族の応援、1.2.3等賞品は鉛筆、ノート、なにを手にしたのだろうか、うん、懐かしい。

合併後の北斗市は広く、小さい頃は道など通っていなかったがあちらこちらに、裏道より市のバスにてセメント工場の峩朗鉦山へ(天候悪く山の上にはいけず、晴れていましたら海原や函館山の方向が)、夜にはアンビックス函館倶楽部にての歓迎式典、楽しいひと時が(山よりの眺め天候悪く残念、またの日と)翌日は、トラピスト修道院の中への見学、71歳にて初めてどんな所かなと興味津々、修道士さんの説明、規律がやはり厳しい礼拝堂は思ったよりもごくシンプルでした)修道士さん凜として格好いいなと一声、美しいレンガ造りの建物をあとにし、きじひき高原山頂へ眺め270°と凄い展望、中腹にはバンガロー、季節ごとの楽しみが、又の機会に、今夕も旅の醍醐味、やはり食事に、温泉 バイキングコースにていくらたっぷりのご飯、おいしかった、満足満足でした。

商工会の皆さまよりの差し入れご馳走さまでした。お土産にシュウマイ早速我が家へ、2泊3日の行程はバスにての行動、ガイドさん最高でした。いろいろとお気遣いして頂き本当にありがとうございました。来年は桜の時期に足を運びたい、又新幹線にて北斗市へ。



会長から一言

ふるさと訪問旅行

東京北斗会会長 佐藤金也

ふるさと訪問時は天候に恵まれませんでしたでしたが参加者の気持ちは高揚していた。初日アンビックス函館倶楽部で開催された“歓迎の集い”には高谷市長様 始め市議会議員 市会議員 市幹部 関係団体の皆様が出席し温かいもてなしで大歓待してくれた。

函館山や津軽海峡が一望出来るアンビックスはロケーションも最高 食事もなかなかのレベルで一同大満足でいつまでも余韻に浸ってました。また 多忙にもかかわらず2日間“バスガイド”をしてくれた石川経済部長には感謝したい。絶妙 軽妙な案内説明で参加者をとりこにした。

2日ないし3日間の旅行でしたがあらためて我がふるさとの良さ素晴らしさが痛感され生涯の想いとして記憶に刻まれることでしょう。

最後に参加者の皆様 準備に奔走してくれた旅行委員の皆様に感謝したい。



北斗市へのふるさと旅行 顛末記

ふるさと旅行幹事

東京北斗会事務局 池田喜久雄

この度のふるさと旅行に際まして、北斗市高谷市長 滝口副市長 澤村市民部長 今村市民課長 市民課皆様 石川部長、観光課の皆様 他北斗市役所の皆様には大変お世話になりました。初日の北斗駅での歓迎会 アンビックス上磯での懇親会 北斗市バスでの市内観光等 又各個人への記念写真の配布など、幹事として重ねて厚く御礼申し上げます共に、この旅行の顛末を下記に述べていきます。

「えっ、則さんやっぱりやるんですか、」と私が佐藤副会長の顔をみたのは、昨年11月頃の事でした。「やるんだよ、池田君、せっかく新幹線が通るのだから、それに乗ってふるさと旅行しなきゃ」それが始まりでした。

まずは3月26日始発電車に乗って、訪問する案もありましたが、切符の手配が難しい事と北斗市役所も行事に忙殺されている様で、多少落ち着いてからの実施となりました。その後2月に6月24、25日と日程も固まり、宿泊の段取りにはいりました。北斗市との行事なので市内で収容人員のある「しんわ温泉」予約しましたが、その時点で既に埋まっており予約はできませんでした。

その後、まずは旅行会社の選択と思い、新幹線で行くならそれに強い「びゅう」であり、5%割引も可能とみて、何事も面談して物事をすすめる事を営業の経験から信条としている私としては、早速品川店を訪問しました。しかし団体は扱ってません、団体支店へ行って下さいと軽くあしらわれました。新日本橋の目立たないところにある団体支店を訪問し、副支店長と面談でき、あらかたの要望を打ち出し、理解してもらいました。何せ、この旅行は団体でかつ1泊目は同一に宿泊しても2日目は自宅とか湯の川温泉、帰る日もバラバラ希望との事。いろいろ融通きかせると幹事の一部からの声もあり、久々のふるさと旅行なので皆様の



希望通りと腹を決めてかかり、それを先方が感じたのかなと思います。

その様な中、幹事会で案をまとめ、ラビスタ函館1泊40500円打ち出したところ、これが安かったのか、応募が結構ありました。(ラビスタ函館は東京で人気のホテルで、ツアーにはあまりはいってないらしい)あとで「びゅう」に確認したら、ラビスタ函館に強いとの事で47名分おさえてくれました。後は佐藤副会長を中心に地区幹事を決め、皆さんフル稼働で動いていただき、すすんでいきました。特に上磯担当の外山さんはきめ細かく対応していただきました。私の仕事は宿泊ホテルと新幹線の切符の手配、北斗市とのすり合わせの目途がつけば、ほぼ完了でした。その後地区担当幹事の尽力もあり、スタートしていきました。

驚きは北斗市の歓迎のすごさです。予想はしてましたが、現実にお世話になると懇親会、バスガイドから屋食段取り、バスの限りなく自由な運用等、深く感謝します。

今回は高齢の方で、夫妻での参加が多かったです。いろいろ聞いて見ますと、新幹線が開通ししばらく親戚も訪問してないので、新幹線で行こうと思っていましたが高齢の事もあり、なかなか踏切りがつかず、案内がきて参加しました。との声がありました。そのような話を頂くと地区幹事含め段取りした甲斐があります。

又旅行中幹事として市役所の方と話す機会が多かったのですが、それを見てか、参加者から池田さんは市役所のどちらにお勤めですかと聞かれました。私は千葉在住の東京勤務、千葉都民です。会員の皆様よろしくお祈りします。又皆様と総会で会いするのを楽しみにしています。参加した皆様ありがとうございます。

北斗市と参加の皆様への御礼にて顛末記を閉めたいと思います。

編集後記 東京北斗会の会報は、5年に1回発行している「磯の香」があります。今回の「ふるさと訪問旅行」をきっかけに、これからは年1回広報を発行していこうと、幹事会で提案がありました。「ほっきがい」のように、味のある広報にしていきたいと思います。今後とも、よろしくお祈りします。

